Computation of Bipath PH using Julia

2025/02/21

全体像

全体的な関数

- (1)Bipathposets.jl (Moduleの定義)
- (2)FSCvector.jl(行列の操作をまとめてる)

A型の分解

- (3)AtypeMethod.jl(A型の分解)
- (4)FSC_Contraction_Persistence.jl (区間圧縮)

Matrix Method

- (5)BipathMatMethod.jl
- (6) Print_functions.jl

可視化

(7)BipathPD.jl

例作成

(8)clique.jl

前回の話

今回の話

*体は \mathbb{F}_2 . IsFSC.jl(エラー発見用 もういらないので削除)

(1)Bipathposets.jl

♦Moduleの定義

```
module Bipathposets
       include("IsFSC.jl")
       include("FSCvector.jl")
       include("FSC_Contraction_Persistence.jl")
       include("AtypeMethod.jl")
       include("Print_functions.jl")
6
       include("BipathMatMethod.jl")
       include("clique.jl")
       include("BipathPD.jl")
9
       end # module bipathposets
10
```

(2)FSCvector.jl

◆簡単な行列操作、単体複体のベクトル化などまとめている

(2.1)standardbasis(dim, k)

 k^{\dim} の標準基底を作る.

(2.2) vectorization of SC(FSC, sum of complex)

右図参照

(2.3)boundary_operation(complex)

$$\sigma_4 = [1,2] \mapsto [\sigma_1 = [1], \sigma_2 = [2]]$$

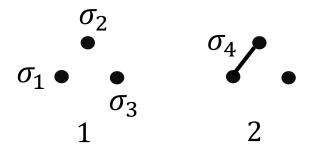
(2.4)find_lowest_nonzero(vect)

略

(2.5) reducematfrom LtoR (matrix)

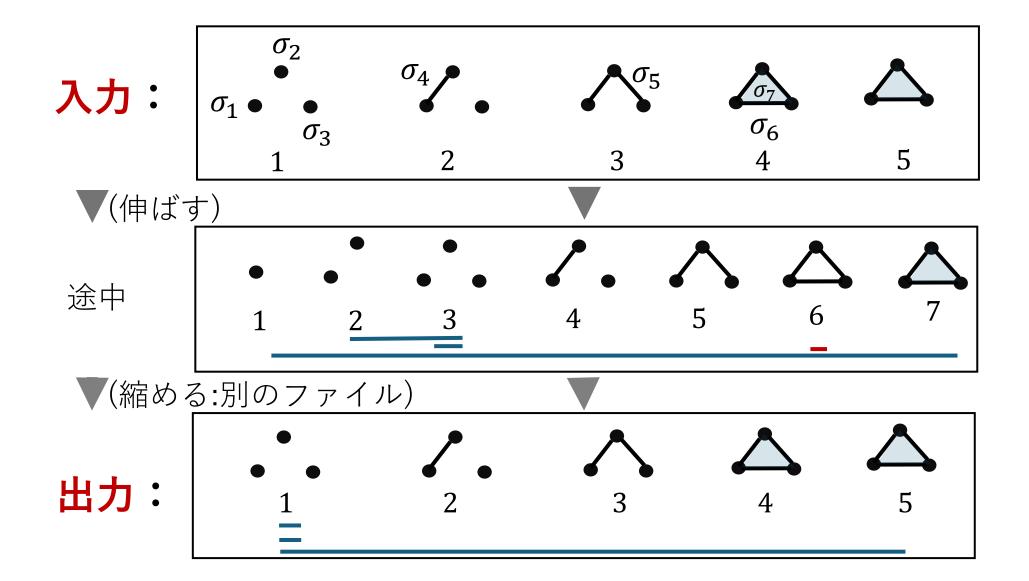
略





$$FSC = [[[\sigma_1, 1], [\sigma_2, 1], [\sigma_3, 1], [\sigma_2, 2]], 2]$$

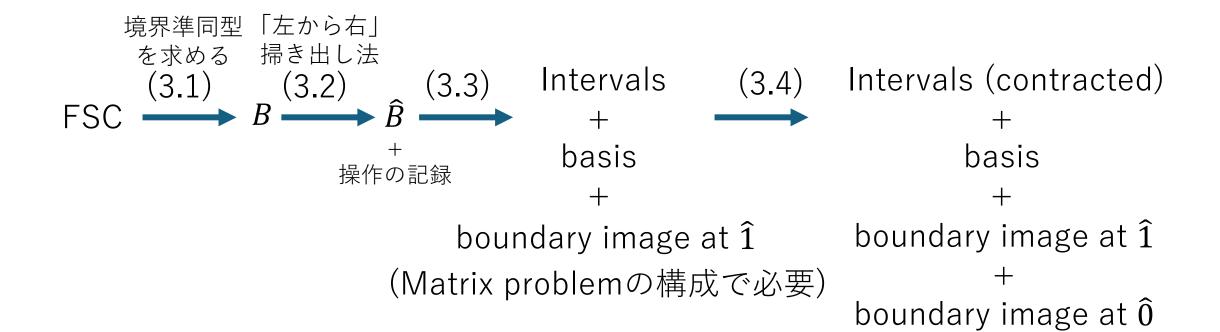
単体をベクトル化する.



参考図書:位相的データ解析から構造発見へ: パーシステントホモロジーを中心に

◆A型のFSCの区間分解(with basis)を与える.

- (3.1)getB(FSC)
- (3.2)getBhat_and_basechange(BB)
- (3.3)get_intervals_with_basis(FSC,Bhat,info_col_change)
- (3.4) bases within tervals (FS(Procedure 1) FSC_Contraction_Persistence.jl

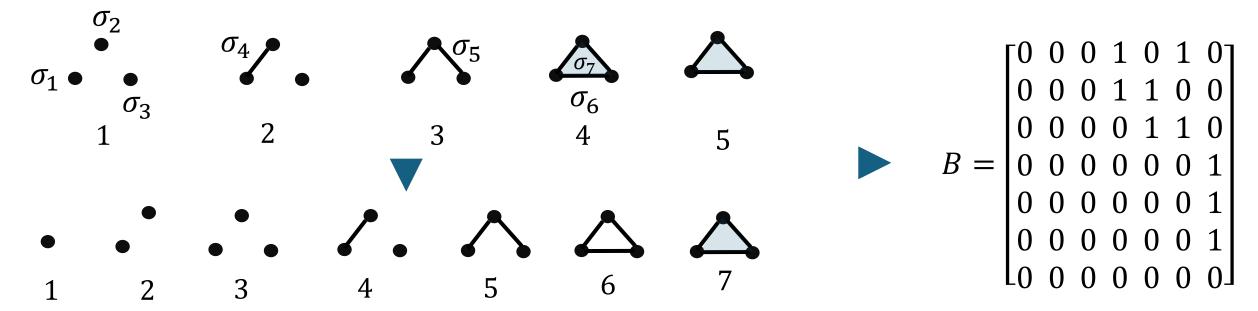


(3.1)getB(FSC):

◆ FSC=>境界準同型の行列表現(基底 $\{\sigma_1,...,\sigma_N\}$ による)を構成

*FSC= [[[σ_1, b_1],...,[σ_N, b_N]], n: filtration の長さ

Ex. $[[[\sigma_1, 1], [\sigma_2, 1], [\sigma_3, 1], [\sigma_4, 2], [\sigma_5, 3], [\sigma_6, 4], [\sigma_7, 4]], 5]$



(3.2)getBhat_and_basechange(B):

◆境界準同型の簡約化:境界準同型(B)=>[Bhat(行列), col_change(リスト)]

Bhat: Bを「左から右への掃き出し法」によって簡約されて得られる行列。

 $col_change:$ ふたつの整数のペア[i,j](i < j) からなるリスト。

「左から右への掃き出し法」で行われた列の変換を記録

$$B = \begin{bmatrix} 0 & 0 & 0 & 1 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \qquad \hat{B} = \begin{bmatrix} 0 & 0 & 0 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$$

col_change=[[5,6],[4,6]]

*区間[a,∞)に付随する基底 を求めるとき必要 (この情報はmatrix methodで必要)

(3.3)get_intervals_with_basis:

◆簡約化された行列から区間と付随する基底を得る (FSC,Bhat,info_col) => [pairs(辞書),imagebasis(リスト)]

pairs:(区間に付随する)基底と区間の対応を与える辞書

imagebasis: 区間($\hat{1}$ を含まない)とそれに付随する基底の対応を与えるリスト.

$$\widehat{B} = \begin{bmatrix} 0 & 0 & 0 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$$

$$col_change = [[5,6],[4,6]] \qquad [1,\infty) = [1,7] \longleftrightarrow \sigma_1$$

imagebasis(リスト)

[[[
$$\sigma_1 + \sigma_2$$
], [2,3]],
[[$\sigma_3 + \sigma_2$],[3,4]],
[[$\sigma_4 + \sigma_5 + \sigma_6$],[6,6]]

$$(H(S)_{\widehat{1}} = Z_{\widehat{1}}/B_{\widehat{1}}$$

 $\mathcal{O}B_{\widehat{1}}\mathcal{O}$ basis elements)

(この情報はmatrix methodで必要)

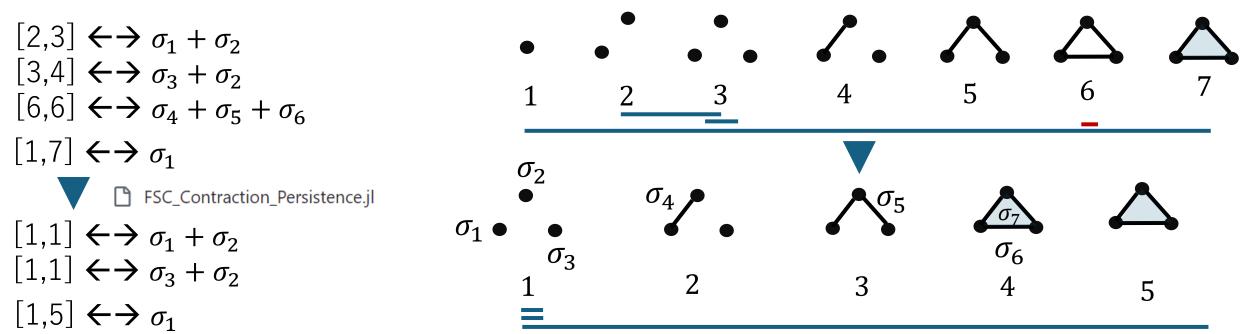
◆FSCの(A型の)区間分解 with basis (赤い本参照).

(3.4) bases within tervals (FSC)

◆(3,1)--(3,3)を用いて、FSCから以下を得る.

FSC->[pairs(辞書), imagebasisleft, imagebasis]

- ・pairs: 辞書、区間と生成元の対応(区間の長さが修正されている)
- ・imagebasisleft: boundary image at $\hat{0}$ 生成元のリスト. [](この例では空集合)
- ・imagebasis: boundary image at $\hat{1}$ の生成元のリスト. $[[\sigma_1 + \sigma_2], [\sigma_3 + \sigma_2], [\sigma_4 + \sigma_5 + \sigma_6]]$



◆(区間分解アルゴリズムで)伸びた区間を縮め、本来の区間を得る. 入力 $\sigma_1 \bullet$ (伸ばす) 途中 ▼(縮める) 出力

- ◆(区間分解アルゴリズムで)伸びた区間を縮め、本来の区間を得る.
 - (4.1) contractbirth(birth, FSC)
 - (4.2) contractdeath(death, FSC)
 - (4.3) contractinterval(I=[birth,death], FSC)

- (4.1)birth(整数)を縮める,
- (4.2)death(整数)を縮める,
- それらを合わせた
- (4.3)区間I = [b,d]のbとdを(1)と(2)
- を用いて縮め、新たな区間を得る.

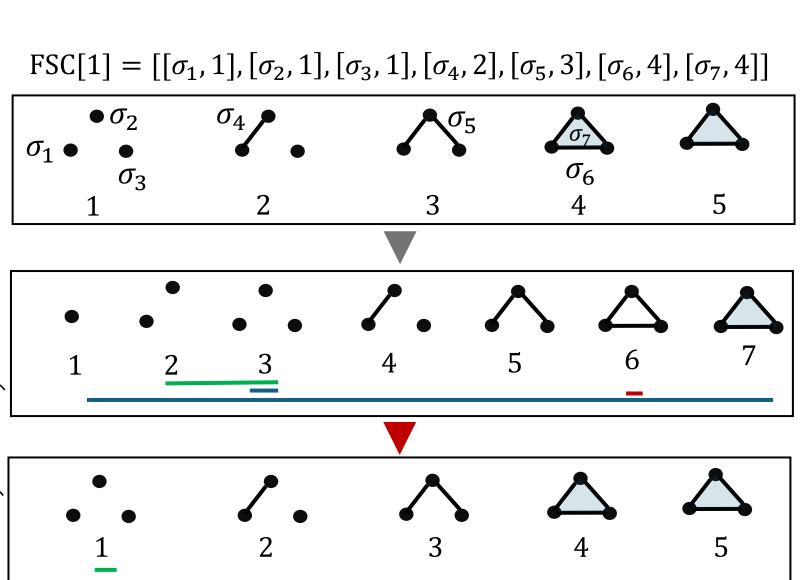
(4.1)contractbirth(birth(整数), FSC)

出力: FSC[1]のbirth番目の単体の誕生日(FSC[1][birth][2]) (*)

(*)ある圧縮前の区間I=[birth, death]のbirthは、本来の区間に圧縮したとき、birth番目の単体の誕生日に移る。

Ex(1)右図において、 birth = 2 のとき、上の関数は 1 を出力する(σ_2 の誕生日は1)。

Ex(2).右図において、birth = 6のとき、上の関数は4を出力する $(\sigma_6$ の誕生日は4)。



(4.2) contractdeath(death (整数),FSC)

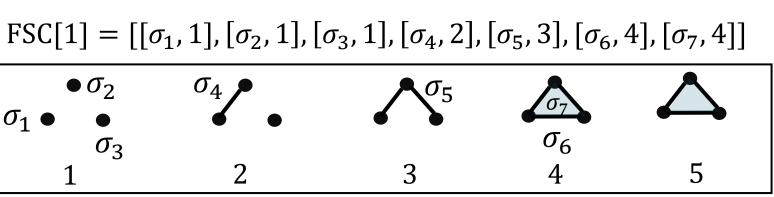
If death = length(FSC[1]):単体の個数
 FSC[2]本来のfilt.の長さ)を出力.
else

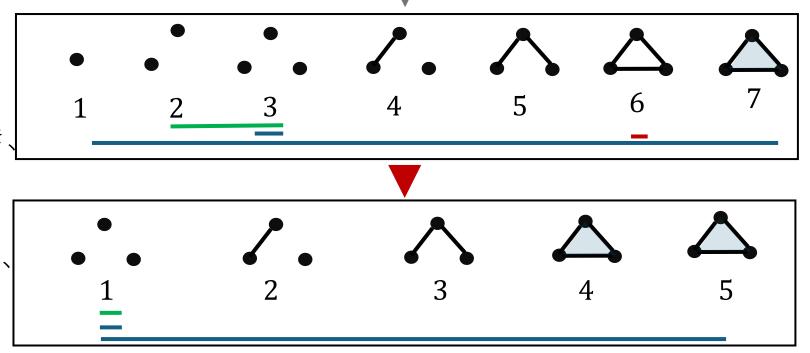
FSC[1][death + 1][2] - 1を出力(*)

(*)ある圧縮前の区間I=[birth, death]のdeathは、本来の区間に圧縮したとき、death+1番目の単体の誕生日-1に移る。

Ex(1)右図において、death = 3のとき、 上の関数は1を出力する $(\sigma_{death+1}$ の誕 生日-1は1)。

Ex(2).右図において death = 6 のとき、 上の関数は3を出力する($\sigma_{death+1}$ の誕 生日-1は3)。





(4.3) contractinterval([birth, death], FSC)

b: = contractbirth(birth, FSC)

d: = contractdeath(death, FSC)に対して

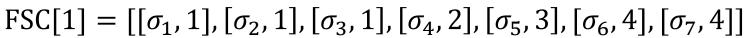
[b, d]を出力

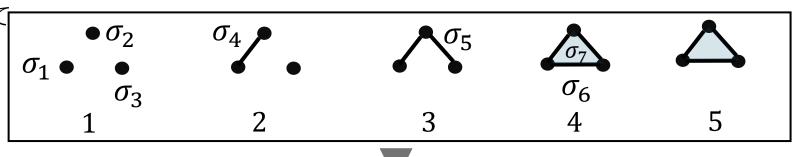
$$Ex(1)$$
. $I = [2,3]$ は $[1,1]$ に送られる

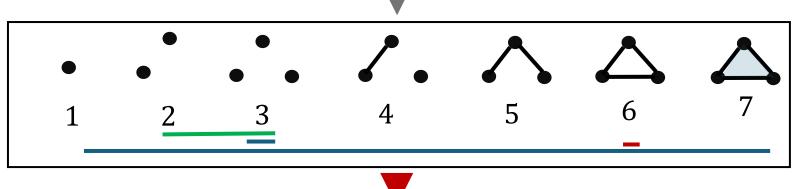
Ex(2). I = [6,6]は[4,3]に送られる. (この関数で得られる以下のような組[a,b](a > b)

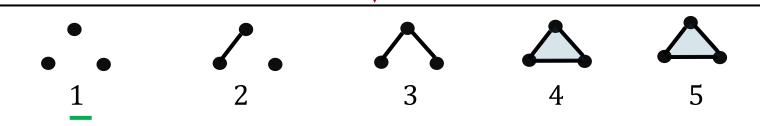
は元々のフィルトレーションではその穴が無かったことを意味する。

このような組は区間分解した後に処理する)







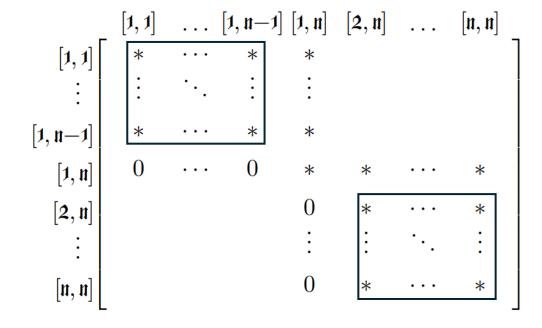


AtypeMatMethod.jl Bipath filtration => Matrix Problem => 区間分解

(5.5)

(5.1), (5.2), (5.3), (5.4)

- ◆Matrix Problemの準備
- (5.1)separateintervals(pairs, k)
- (5.2) make_space(FSC_vect::Dict, int_basis)
- ◆Matrix Problemの構成・簡約化
- (5.3)get_two_repmat(spaceUp, spaceDown)
- (5.4)connect_updown(upintervalswithB, downintervalswithB, matrix)
- (下からの上,左から右,掃き出し法)
- ◆区間の出力
- (5.5)interval_decomposition



◆Matrix Problemの準備

(5.1) separate intervals (pairs, k)

pairs(辞書):区間とその区間に付随する生成元の対応

k: filtrationの長さ

区間を4つのタイプに分ける

- ・最小を含み、最大を含まない(**L**)
- ・最少と最大を含む(B)
- ・最小を含まず最大を含む(R)
- ・それ以外(**U** and **D**).

それぞれのタイプの区間と(区間に付随する)生成元のペアからなる リストを出力

* AtypeMethod.jlの関数によってタイプLとRの区間は"整列"されている。 [leftintervals,leftbasis], [center,centerbasis],[rightintervals,rightbasis], [others,othersbasis]

î

◆Matrix Problemの準備

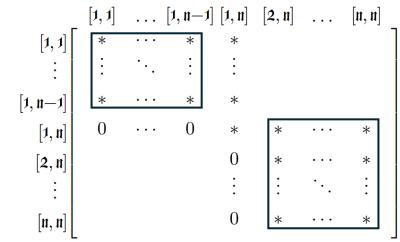
(5.2) make_space(FSC_vect::Dict, int_basis)

FSC_vect: FSCの単体をベクトル化したもの。

int basis: 区間に付随するホモロジー類の生成元(鎖複体の元たち)。

int_basisをベクトル化し、それらをひとつの行列して出力する。

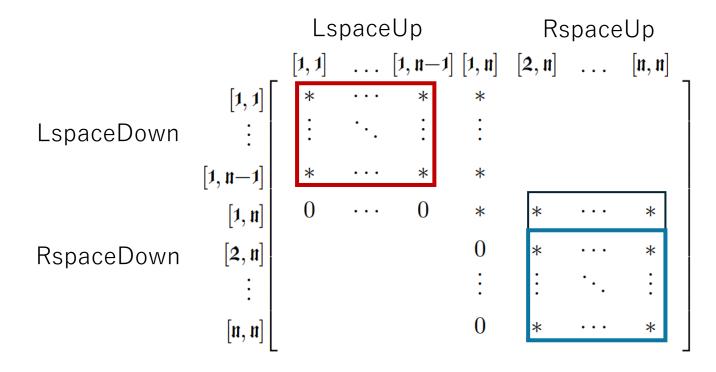
ベクトル化



Ex. intbasis= $[v_1, v_2, v_3]$

◆Matrix Problemの構成

(5.3)get_repmat(spaceUp, spaceDown) spaceUp, spaceDownは行列 連立方程式を解き、行列 $\pi_\ell \Lambda \iota_\ell$ と $\pi_\ell \Gamma \iota_\ell$ を求めるための関数。



get_repmat(LspaceUp, LspaceDown)

$$=\pi_{\ell} \Lambda \iota_{\ell} = egin{bmatrix} * & \cdots & * \ dots & \ddots & dots \ * & \cdots & * \end{pmatrix}$$

get_repmat(RspaceUp, RspaceDown)

$$=\pi_\ell \, \Gamma \iota_\ell = egin{bmatrix} * & \cdots & * \ dots & \ddots & dots \ * & \cdots & * \end{pmatrix}$$

◆Matrix Problemの簡約化(+上下の区間の接続(with区間に付随する基底))

(5.4)connect_updown(upintervalswithB, downintervalswithB, matrix) *正則行列 $\pi_\ell \Lambda \iota_\ell$ と $\pi_\ell \Gamma \iota_\ell$ に適用 upintervalswithB: 区間のリストと,その区間たちに付随する生成元のリストの組.

$$[[I_1, I_2, I_3, I_4], [\sigma_1, \sigma_2, \sigma_3, \sigma_4]]$$

*生成元の情報は「区間が何次のホモロジーの情報を持つか」を知るために必要!

downintervalswithB: 区間のリストと,その区間たちに付随する生成元のリストの組.

$$[[J_1, J_2, J_3, J_4], [\tau_1, \tau_2, \tau_3, \tau_4]]$$

入力 左から右 下から上の操作

·右 置換 区間を繋げる D操作 行列

出力

◆区間の出力(これまでの関数を用いて区間分解をし、出力)

(5.5)interval_decomposition(FSCa,FSCb)

入力: FSCa, FSCb (bipath filtration)

出力: 辞書 $i \mapsto \mathcal{B}(H_i(S))$ (ith bipath PHの区間分解), FSCaの長さ, FSCbの長さ

この関数はこれまでの関数を組み合わせたもの。

入力 -> A型区間分解×2 -> 行列を構成 -> 簡約化 -> 区間分解 -> 次数で区間を分類 -> 出力

FSCa

FSCb

入力

◆区間の出力(これまでの関数を用いて区間分解をし、出力)

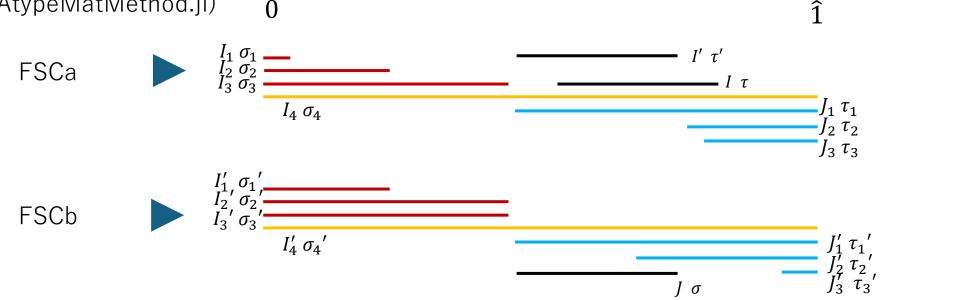
(5.5)interval_decomposition(FSCa,FSCb)

入力: FSCa, FSCb (bipath filtration)

出力: 辞書 $i \mapsto \mathcal{B}(H_i(S))$ (ith bipath PHの区間分解), FSCaの長さ, FSCbの長さ

この関数はこれまでの関数を組み合わせたもの。

入力 -> A型区間分解×2 -> 行列を構成 -> 簡約化 -> 区間分解 -> 次数で区間を分類 -> 出力 (AtypeMatMethod.jl) $\hat{0}$



◆区間の出力(これまでの関数を用いて区間分解をし、出力)

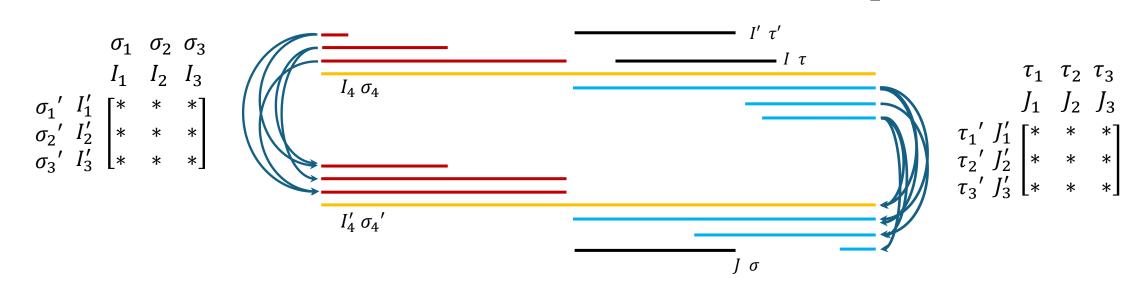
(5.5)interval_decomposition(FSCa,FSCb)

入力: FSCa, FSCb (bipath filtration)

出力: 辞書 $i \mapsto \mathcal{B}(H_i(S))$ (ith bipath PHの区間分解), FSCaの長さ, FSCbの長さ

この関数はこれまでの関数を組み合わせたもの。

入力 -> A型区間分解×2 -> **行列を構成** -> 簡約化 -> 区間分解 -> 次数で区間を分類 -> 出力 $\hat{0}$ (get_repmat)×2



◆区間の出力(これまでの関数を用いて区間分解をし、出力)

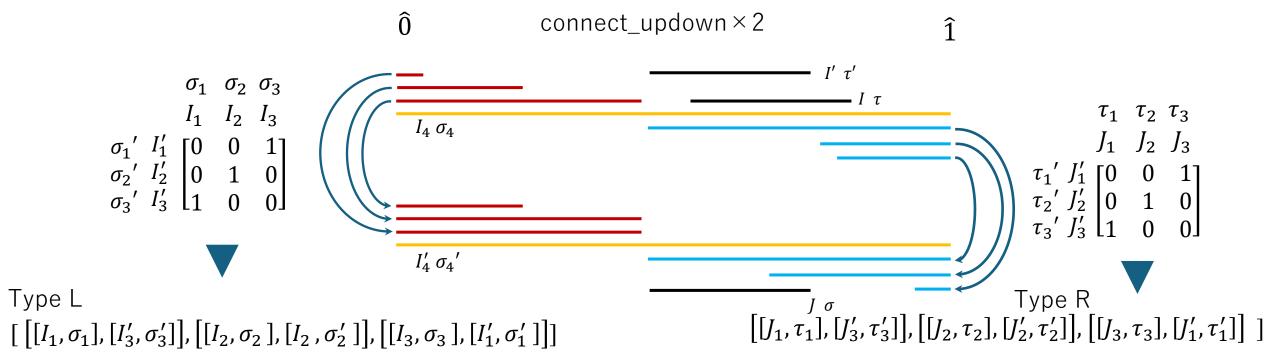
(5.5)interval_decomposition(FSCa,FSCb)

入力: FSCa, FSCb (bipath filtration)

出力: 辞書 $i \mapsto \mathcal{B}(H_i(S))$ (ith bipath PHの区間分解), FSCaの長さ, FSCbの長さ

この関数はこれまでの関数を組み合わせたもの。

入力 -> A型区間分解×2 -> 行列を構成 -> **簡約化** -> **区間分解** -> 次数で区間を分類 -> 出力



◆区間の出力(これまでの関数を用いて区間分解をし、出力)

(5.5)interval_decomposition(FSCa,FSCb)

入力: FSCa, FSCb (bipath filtration)

出力: 辞書 $i \mapsto \mathcal{B}(H_i(S))$ (ith bipath PHの区間分解), FSCaの長さ, FSCbの長さ

この関数はこれまでの関数を組み合わせたもの。

入力 -> A型区間分解×2 -> 行列を構成 -> **簡約化** -> **区間分解** -> 次数で区間を分類 -> 出力

Type: Left $[[I_1, \sigma_1], [I'_3, \sigma'_3]], [[I_2, \sigma_2], [I_2, \sigma'_2]], [[I_3, \sigma_3], [I'_1, \sigma'_1]]]$

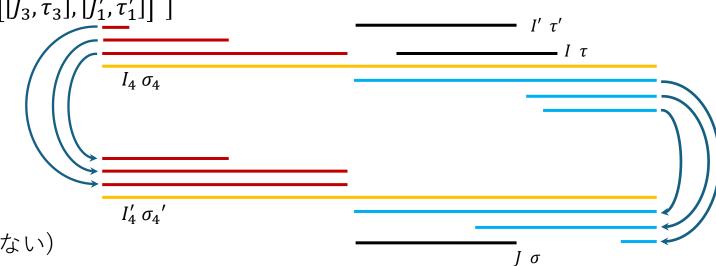
Type: Right $[[J_1, \tau_1], [J_3', \tau_3']], [[J_2, \tau_2], [J_2', \tau_2']], [[J_3, \tau_3], [J_1', \tau_1']]$

Type: Up $[[I,I'],[\tau,\tau']]$

Type: Down $[[J], [\sigma]]$

Type: Center* $[[I_4], [\sigma_4]]$

*上の区間だけとる $(I_4' \sigma_4'$ はいらない)



◆区間の出力(これまでの関数を用いて区間分解をし、出力)

(5.5)interval_decomposition(FSCa,FSCb)

入力: FSCa, FSCb (bipath filtration)

出力: 辞書 $i \mapsto \mathcal{B}(H_i(S))$ (ith bipath PHの区間分解), FSCaの長さ, FSCbの長さ

この関数はこれまでの関数を組み合わせたもの。

入力 -> A型区間分解×2-> 行列を構成 -> 簡約化 -> 区間分解 -> 次数で区間を分類 -> 出力

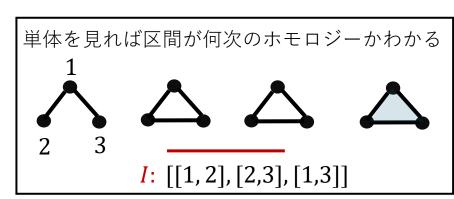
Left = $[[[I_1, \sigma_1], [I'_3, \sigma'_3]], [[I_2, \sigma_2], [I_2, \sigma'_2]], [[I_3, \sigma_3], [I'_1, \sigma'_1]]]$

Right = $[[[J_1, \tau_1], [J'_3, \tau'_3]], [[J_2, \tau_2], [J'_2, \tau'_2]], [[J_3, \tau_3], [J'_1, \tau'_1]]]$

 $\mathsf{Up} = [[I, I'], [\tau, \tau']]$

Center= $[[I_4], [\sigma_4]]$

Down= $[[J], [\sigma]]$



各 $i \in \{0,1,...\}$ に対して、 $i \mapsto i$ 次の区間の集まりを対応させることで辞書を作っている.

*Center: 上の区間だけとる $(I'_4 \sigma_4'$ はいらない)

◆区間の出力(これまでの関数を用いて区間分解をし、出力)

(5.5)interval_decomposition(FSCa,FSCb)

入力: FSCa, FSCb (bipath filtration)

出力: 辞書 $i \mapsto \mathcal{B}(H_i(S))$ (ith bipath PHの区間分解), FSCaの長さ, FSCbの長さ

この関数はこれまでの関数を組み合わせたもの。

入力 -> A型区間分解×2-> 行列を構成 -> 簡約化 -> 区間分解 -> 次数で区間を分類 -> **出力**

*この関数を使うと、ターミナル上に 左のような文字が表示される。区間の 存在の有無が分かり便利。

次は表示するためのコードを見る。

♦bipath上の区間を以下のようにターミナルに表示する。

♦bipath上の区間を以下のようにターミナルに表示する。

```
(6.1)print_intL(interval) (typy Lの区間 \mapsto string (\langle s, t \rangle)) (6.2)print_intR(interval) (typy Rの区間 \mapsto string (\langle s, t \rangle)) (6.3)print_up(interval) (typy Uの区間 \mapsto string (\langle s, t \rangle)) だいたい同じ (6.4)print_down(interval) (typy Dの区間 \mapsto string (\langle s, t \rangle))
```

(6.5)print_intervals(header, intervals, printer) (上のコードを用いて区間をprintしてくれる.)

- *上4つの関数 print_intL, print_intR, print_up, print_downは殆ど一緒なのでprint_intLだけ説明
- *関数として区間 $B_{n,m}$ をprintするprint_centerは無い. (関数を作るまでもない)

◆Type Lの区間を⟨*s*,*t*⟩の形で表す。

(6.1)print_intL(interval) (typy Lの区間
$$\mapsto$$
 string ($\langle s, t \rangle$))

Ex. type Lの区間は上側の区間と下側の区間を合わせたものと考えている。いま、区間として [I,J] = [[1,2],[1,5]] を考える.

I = [1,2] $\underline{\qquad} t = 2-1$

$$J = [1,5]$$
 $s = 5-1$

t=2-1=1 (A型と $B_{n,m}$ の区間では数字が1ずれるので修正している)

より、出力は(4,1).

s = 5 - 1 = 4

*(6.2)—(6.4)も同様に、bipath posetの区間 → string (⟨s,t⟩))の対応を与える

◆(6.1)—(6.4)を用いて区間をプリントする。

(6.5)print_intervals(header, intervals, printter) (区間をprintしてくれる.)

Ex.

print_intervals("intervals with 0:", [[1,2], [1,5]], [[1,4], [1,1]]], print_intL)を計算。

intervals with $\hat{0}$: $\langle 4,1 \rangle$, $\langle 3, \hat{0} \rangle$

がターミナルに表示される(色は付かない).

[1,5]

[1,1]

◆ BipathPD.jlではbipathの区間からBipathPDを出力する関数を書く。

(7.1) (7.2),(7.3) **入力:**Bipathの区間+上下のpathの長さ → 平面上の点→ **出力:** bipathPD

(7.4)

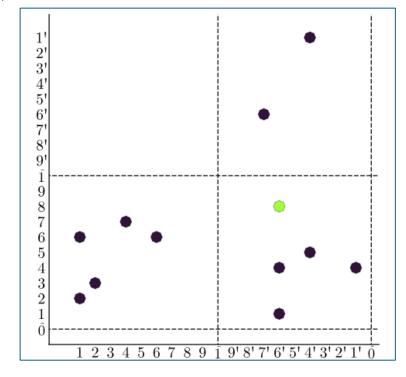
このファイルは4つの関数からなる。

(7.1) intervalstoplane(intL,intR,up,down,center,n,m)

(7.2) plotpoints(points,n,m)

(7.3) colorfunc(col, max::Int, mult::Int)

(7.4) plotintlist(X,i_th::Int)



i thのバイパスパーシステンス図

(7.1) intervalstoplane(intL, intR, up, down, center, n, m)

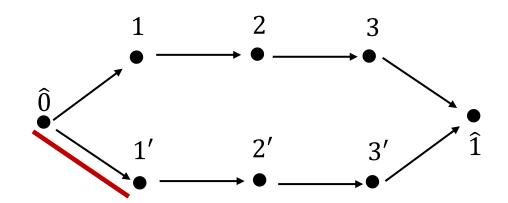
(7.<u>1)</u> **入力:** Bipathの区間+上下のpathの長さ→ 平面上の点→ 出力: bipathPD

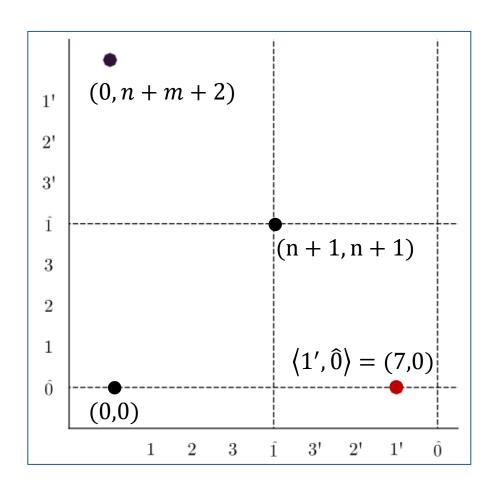
Bipath poset $B_{n,m}$ のそれぞれのタイプの区間(intL, intR, up, down, center)を平面上の点の座標に変換する。

Ex.
$$n = 3, m = 3$$

Type L:
$$[[1,1],[1,2]] \mapsto (7,0) = \langle 1', \hat{0} \rangle$$

$$B_{3,3}$$
: = [1, $n + m + 8$] \mapsto (0, $n + m + 2$)





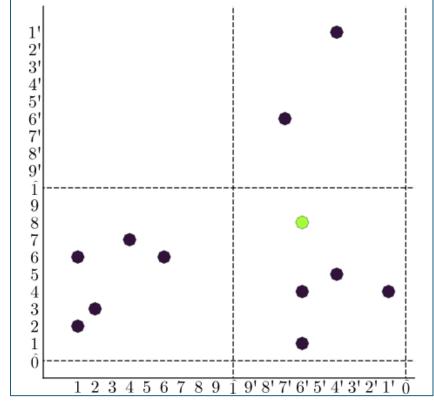
(7.2) plotpoints(points,n,m) #points=[[a,b],[c,d],[a,b],...]

(7.2) 入力: Bipathの区間+上下のpathの長さ→ 平面上の点<u>→ **出力**: bipathPD</u>

・与えられたpointsを平面上にプロットする。

- ・縦軸と横軸のメモリを書く。
- ・点線を書く。

*区間を平面上の点(a,b)に対応させたものたちを入力とする



(7.3) colorfunc(color, max(全ての点の重複度の最大値), mult(プロットしたい点の重複度))

(7.3) 入力: Bipathの区間+上下のpathの長さ→ 平面上の点→ **出力**: bipathPD

◆ 重複度によってプロットする点の色を変えるための関数.

```
max:全ての区間の重複度の最大値
function colorfunc(col, max::Int, mult::Int)
                                     mult:ある区間の重複度を入れる想定をしている
 d = div(length(col), max)
```

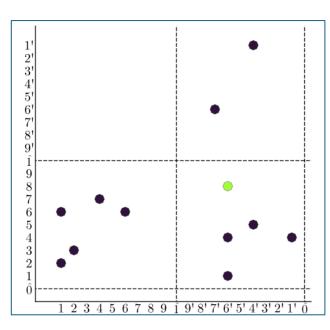
return $(d \le 1 \mid | max == 1) ? 1 : min(1 + d * (mult - 1), length(col))$

end

色(color)を \max 等分して, i $/\max$ < \min < $(i + 1)/\max$ にいるようなiを捜している.

color = cgrad(:turbo)として採用 Plots 重複度

- * JuliaのPlotsを用いてプロットをしている。
- * cgrad(:turbo)から色をとって来ている。
- *重複度が大きいほど赤色になるようにしている。



(7.4) plotintlist(X, i_th)

◆今までの関数を合わせて区間をプロットする。

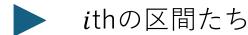
(7.1) (7.2),(7.3) **入力:**Bipathの区間+上下のpathの長さ → 平面上の点→ **出力:** bipathPD (7.4)

X = interval_decomposition(FSCa,FSCb)

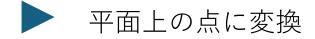
Bipath filtration (FSCa, FSCb)



区間分解

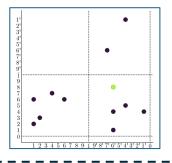


(7.1) intervalstoplane(intL,intR,up,down,center,n,m)



(7.3) plotpoints(points,n,m)

点をプロット、図を出力。

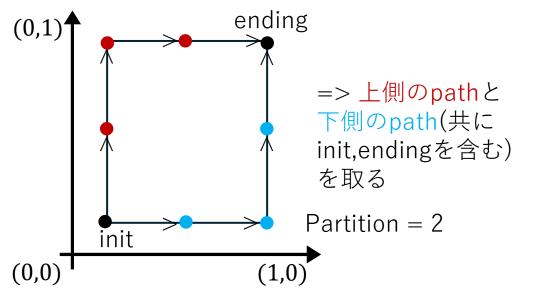


◆ clique.jlではランダムにクリーク複体のバイパスフィルトレーションを出力する 関数を書く(例を作るため)。

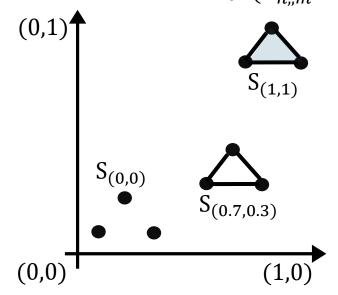
このファイルは2つの関数からなる。

- (8.1) get_rectangular_paths(init,ending,partition::Int)
- (8.2) clique_random(G,faces,path1,path2)

(8.1) Opicture.

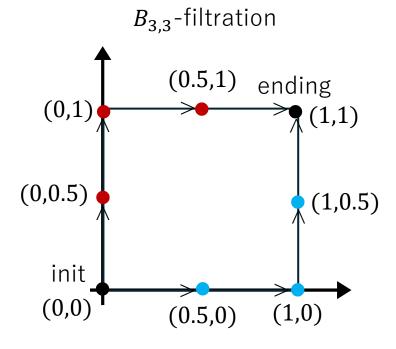


(8.2)Bi-filtration $S: [0,1]^2 \to \text{Simp}$ をランダムに作り バイパスに制限して得られるバイパスフィルトレー ションを得る。($B_{n,m} \to [0,1]^2 \to \text{Simp}$)

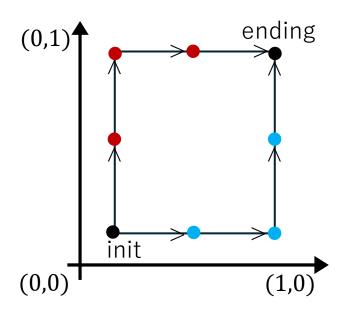


(8.1) get_rectangular_paths(init,ending,partition::Int)

```
入力:
init, ending \in [0,1]^2
partition \in \mathbb{Z}_{.>0}.
出力:
uppath, underpath \in ([0,1]^2)^{(2*partition+1)}
例.
init = [0,0]
ending =[1,1]
partition=2
=>
        uppath = [0.0, 0.0],
                                 underpath = [0.0, 0.0],
                    [0.0, 0.5],
                                                 [0.5, 0.0],
                    [0, 1],
                                                 [1, 0],
                    [0.5, 1.0],
                                                  [1.0, 0.5],
                                                  [1, 1],
                    [1, 1]
```



```
function get_rectangular_paths(init,ending,partition::Int)
  underpath =[]
  uppath=[]
  Ix = (ending[1] - init[1])/partition
  ly = (ending[2] - init[2])/partition
  for i in 1:partition
     push!(underpath,init+[lx*(i-1),0])
     push!(uppath,init+[0,ly*(i-1)])
  end
  push!(underpath,[ending[1],init[2]])
  push!(uppath,[init[1],ending[2]])
  for i in 1:partition-1
     push!(underpath,[ending[1],init[2]+ly*(i)])
     push!(uppath,[init[1]+lx*(i),ending[2]])
  end
  push!(underpath,ending)
  push!(uppath,ending)
  return uppath, underpath
end
```



(8.2) clique random(G,faces,path1,path2)

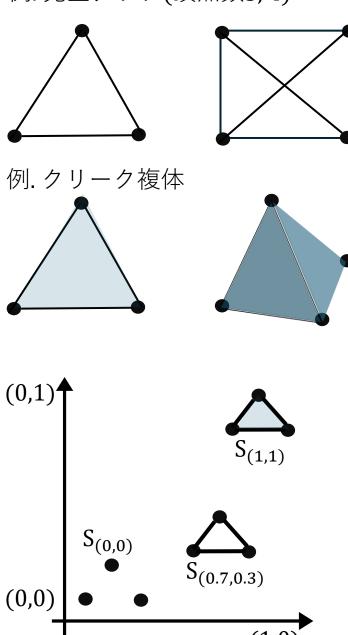
Bi-filtration $S: [0,1]^2 \to \text{Simp} を ランダムに作り、$ そこから(1)の関数を用いてバイパスフィルトレーショ ンを得る $(B_{n,m} \rightarrow [0,1]^2 \rightarrow Simp)$

入力: G… 完全グラフ (using SimpleGraphs) faces… グラフGの頂点集合のべき集合。 $path1, path2 \cdots [0,1]^2$ の元のリストで \mathbb{R}^2 の順序で整列されて いるもの, かつ始点と終点が一致してるもの。((8.1)で得られ るuppath, underpathを想定)

出力:バイパスフィルトレーション

- 1. (完全グラフGの頂点にv = [i]に重み[0,0]を乗せる) グラフの辺e = [i,j]に重み $w_e \in [0,1]^2$ を乗せる. =>グラフのbi-filtration $S = \{S_{a,b}\}_{(a,b)\in[0,1]^2}$ ができる。
- 2. 各 $(a,b) \in [0,1]^2$ に対して $S_{a,b}$ から定まるクリーク複体 $X(S_{a,b})$ を取る。ことで、新たな $X(S) = \{X(S_{a,b})\}_{(a,b)\in[0,1]^2}$ を得る.
- 3. Bipathに制限することでbipath filtrationを得る.

例. 完全グラフ(頂点数3,4)



(7)BipathPD.jl

```
(4) plotintlist(X,i_th::Int)
X = interval decomposition(FSCa,FSCb)
function plotintlist(X,i th::Int) #X = interval decomposition(FSCa,FSCb)
   if (i th in keys(X[1])) == false #check that we have points to plot.
     println("no ",i th," homology.")
     return false
   end
   dict int = X[1][i th]
   n, m = X[2] - 2, X[3] - 2
   intL, intR, up, center, down = dict int[1], dict int[2], dict int[3], dict int[4], dict int[5]
   intlist = intervalstoplane(intL,intR,up,down,center,n,m)
   plotpoints(intlist,n,m)
 end
```

◆Matrix Problemの準備

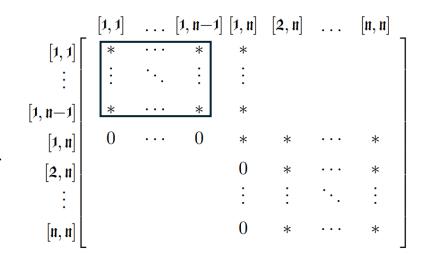
(5.2) get_basis_intervals_left(FSC,left_int_basis)

FSC: Filtered Simplicial Complex

Loft int basis: [loftintoryals loftba

left_int_basis: [leftintervals,leftbasis]

FSCに含まれる単体複体を整列し、単体たちによって生成されるベクトル空間の基底を固定する。この基底に対して、 type Lの区間に対応する元をベクトル化し、それらをひとつの行列にする。



[leftintervals,leftbasis]

$$\overline{}$$
 $\overline{}$ $\overline{\phantom{$

一 行列 $[v_1v_2,v_3]$ を出力(size=単体数×区間の数)

- ◆Matrix Problemの準備
- (4) get_basis_intervals_left(FSC,left_int_basis, imagebasis_left)

FSCに含まれる単体複体を整列し、単体たちによって生成されるベクトル空間の基底を固定する。この基底に対して、 type Lの区間に対応する元をベクトル化し、それらをひとつの行列にまとめる

[leftintervals,leftbasis]

$$\overline{}$$
 $\overline{}$ $\overline{\phantom{$

ト 行列 $[v_1v_2\ v_3\ B_{\widehat{0}}]$ を出力

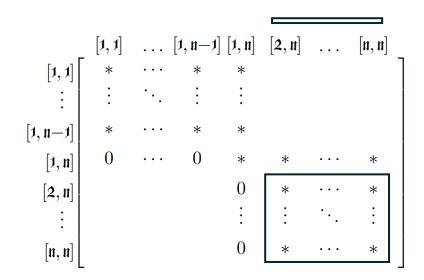
 $B_{\hat{0}}$ は境界準同型のimage at $\hat{0}$.

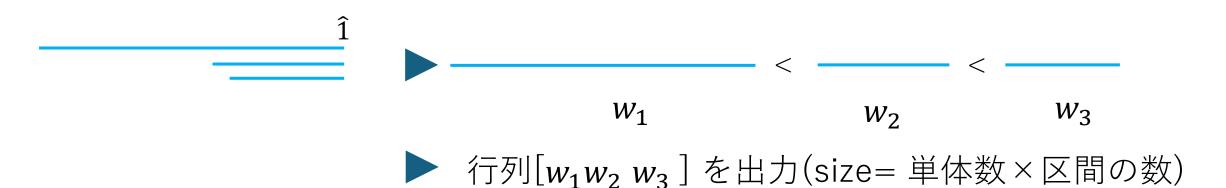
◆Matrix Problemの準備

(3) get_basis_intervals_right(FSC,right_int_basis)

FSC: Filtered Simplicial Complex right_int_basis: [rightintervals,rightbasis]

FSCに含まれる単体複体を整列し、単体たちによって生成されるベクトル空間の基底を固定する。この基底に対して、 type Rの区間に対応する元をベクトル化し、それらをひとつの行列にする。



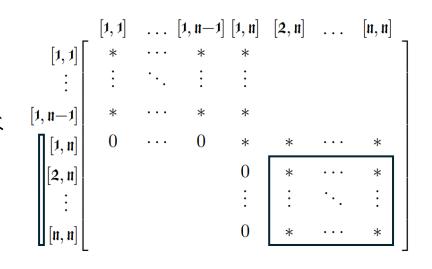


◆Matrix Problemの準備

(5)get_basis_intervals_right(FSC,right_int_basis,imagebasis, centerwithB)

FSCに含まれる単体複体を整列し、単体たちによって生成されるベクトル空間の基底を固定する。この基底に対して、 type R, Bの区間に対応する元をベクトル化し、それらをひとつの行列にし、

îでの境界準同型のImageの基底をベクトル化したものをまとめる。



 w_1 w_2 w_3 行列[w_1w_2 w_3 $B_{\widehat{1}}$ C] を出力

 $B_{\widehat{1}}$ は境界準同型のimage at $\widehat{1}$.

Cは区間type Bたちに付随する基底のベクトル化.

◆Matrix Problemの準備

(5.3)get_basis_intervals(FSC_vect, int_basis, image_basis = true, center basis = true)

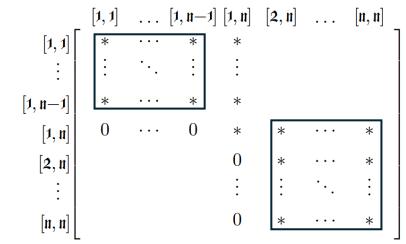
FSC vect: FSCの単体をベクトル化したもの。

int basis: 区間に付随する鎖複体の元たち。

image_basis: 区間に付随する鎖複体の元たち。

center_basis: 区間に付随する鎖複体の元たち。

FSCに含まれる単体複体を整列し、単体たちによって生成されるベクトル空間の基底を固定する。この基底に対して、 int_basis、image_basis, center_basisの中の区間に対応する鎖複体元をベクトル化し、それらをひとつの行列にする。



 w_1 w_2 w_3

一行列 $[w_1w_2 \ w_3 \ B_{\widehat{1}} \ C]$ を出力 $B_{\widehat{1}}$ は境界準同型のimage at $\widehat{1}$.

Cは区間type Bたちに付随する基底のベクトル化.

(6) Print_functions.jl

```
(6.1) print_intL(interval) (typy Lの区間 \mapsto string (\langle s, t \rangle)) 
 \spadesuit Type Lの区間を\langle s, t \rangleの形で表す。
```

```
function print_intL(interval)  s, t = interval[2][2] - 1, interval[1][2] - 1 \\ return "<" * (s == 0 ? "0" : string(s)) * "" ," * (t == 0 ? "0" : string(t)) * "> " end
```

(6) Print_functions.jl

```
◆(6.1)—(6.4)を用いて区間をプリントする。
        (6.5)print_intervals(header, intervals, printter) (区間をprintしてくれる.)
          function print_intervals(header, intervals(同じtypeの区間たち), printter(print_intLなど先程の関数))
             print(header)
             for interval in intervals
                 print(printter(interval))
             end
             println(" ")
          end
Ex.
print\_intervals ("intervals with \ \hat{0}:", [\llbracket 1,2 \rrbracket, \llbracket 1,5 \rrbracket \rrbracket, \llbracket 1,4 \rrbracket, \llbracket 1,1 \rrbracket \ \end{bmatrix}] \ , \ print\_intL)
を計算。
                                                                                             [1,4]
intervals with \hat{0}: \langle 4,1 \rangle, \langle 3, \hat{0} \rangle
                                                                              [1,5]
がターミナルに表示される(色は付かない).
```